

## 京都市台北情報拠点レポート(2018年6月・7月分)

### 1 統計

○訪日旅行者数(台湾)

・2018年6月 456,900人 (2017年6月 433,603人) (対前年比+5.4%)

・2018年7月 460,500人 (2017年7月 446,604人) (対前年比+3.1%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内39ホテル対象宿泊実人数(台湾)

・2018年6月 18,906人 (2017年6月 21,108人) (対前年比-13.9%)

・2018年7月 19,028人 (2017年7月 22,567人) (対前年比-18.5%)

※出典 京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人客宿泊状況調査」 ※対前年比は総営業部屋数の差異を補正反映

### 2 市場動向

#### 〔観光市場全体動向〕

台湾の大手旅行会社「ライオントラベル」によると、今年、夏休み時期の団体旅行の1人当たり料金は例年より平均1000-2000円安くなったことが明らかになった。今年ヨーロッパにおいて、ロンドンをはじめ、パリ、東ヨーロッパなどの増便が相次いで、航空座席供給量が増加していることや、アメリカ、オセアニア、日本などの地域において、航空会社が割引キャンペーンを打ち出したことが理由として挙げられた。そして、オンシーズンにも関わらず、割引キャンペーンを実施することから見れば、航空会社の競争が激しいことがわかった。日本の地域別からみると、関東において団体商品の料金設定は例年とほぼ同じだが、子供半額や団体で申し込むと割引できるなどのキャンペーンを実施した関係で、結果的に1人当たりの料金は去年同期より1000-2000円安くなった。関西において、航空会社は夏休みセールを実施した影響で、例年より2000-3000円安くなった。また、北海道、沖縄などの地域は1人当たりの平均料金は例年とほぼ同じだという。例年より値段が少し下がった地域もあるが、増便や新路線の開始により、全体の旅行市場を刺激することができ、旅行会社の夏の業績にいい影響をもたらすことが期待されている。

最近台湾では、ヨーロッパなどへの長距離の旅がだんだん人気を集めている。2018年1月-5月の訪日台湾人数は前年より12.61%成長し、同期間に訪米台湾人数も2.61%成長した。エア・カナダは「台北ーバンクーバー」路線で繁体字対応できる客室乗務員を配置し、台湾旅客を重視する意向を見せている。そのほか、2018 FIFAワールドカップの影響で、開催国ロシア及び4強に入った4カ国へ旅するのも人気が出ている。

近年クルーズ旅がブームとなって、台湾でもクルーズ旅が流行っており、中国に続き、アジア2番目大きい市場となっている。クルーズ市場の拡大を見込み、統一旅行社は6月にスタークルーズの代理店になることを発表し、そして、ライオントラベルも積極的にプリンセス・クルーズなどと提携し、5年後、台湾のクルーズ市場は現在より20%成長すると見込まれている。

### 〔訪日市場動向〕

日本政府観光局(JNTO)によると、2018年6月の訪日台湾人数は45万6900人。去年より5.4%成長し、6月として過去最高を記録した。原因はLCC航空会社による航空座席供給量の増加と6月中旬の端午節連休にあるという。また、地方への航空路線の就航が日本旅行のリピーターを惹きつけていると考えられる。旅行検索サービス「KAYAK(カヤック)」の調査によると、訪日台湾人と韓国人の中で、一般航空とLCC航空の利用率は50:50ということが分かった。それに対して、訪日香港人や中国人は一般航空の利用率は70%以上。理由としては台湾や韓国は日本へのLCCが多く就航しているほか、日本の多くの都市に直行便があることが考えられる。

なお、現在クルーズ旅がブームになっており、台湾の大手旅行会社ライオントラベルによると、クルーズ旅を選択する人は大体50代がメイン。そして、家族旅行や三世帯旅行に人気だという。ライオントラベルはすでに来年桜時期に日本へお花見するクルーズ商品を打ち出し、クルーズ市場をロックオンしている。しかし、同じくJNTOの調査によるとクルーズで日本を訪れた客の消費額はフライト客の3分の1以下と分かった。クルーズ客は宿泊を客船のみで終らせる人が多く、ホテルなど陸上の宿泊施設に泊まっていない状況が明らかになった。また、飲食費や交通費、娯楽サービス費についても、一般客の支出のほうが圧倒的に多い傾向が確認された。どうやって経済効果を高めるのかまた各自治体の課題である。

### 〔訪日台湾旅客数推移〕

訪日台湾旅客数推移		
	JNTO 数値	台湾交通部観光局数値
	成長率(%)	成長率(%)
2018年5月	440,100	449,377
	8.0	8.99
2018年6月	456,900	459,880
	5.4	4.05
JNTO: Japan National Tourism Organization		
交通部観光局: Tourism Bureau, M.O.T.C. Republic of China		

### 〔関空の定期便の動向〕

関空定期便利用状況		2018年5月			
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	348	92,532	77,044	83.3
	ジェットスター・ジャパン	8	1,446	1,231	85.1
	エバー	310	67,450	60,810	90.2
	キャセイ	62	18,042	14,752	81.8
	ジェットスター	98	17,640	15,261	86.5
	フィリピン	62	12,338	7,912	64.1
	タイガーエア台湾	150	27,000	22,484	83.3
	JAL	124	21,700	17,890	82.4

	ピーチ	186	33,480	31,262	93.4
	バニラエア	62	11,160	9,898	88.7
	スクート・タイガーエア	28	9,520	7,949	83.5
合計		1,438	312,308	266,493	85.3%
<b>関空定期便利用状況 2018年6月</b>					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	334	89,457	77,001	86.1
	ジェットスター・ジャパン	40	7,208	5,956	82.6
	エバー	301	67,782	61,466	90.7
	キャセイ	60	17,142	14,142	82.5
	ジェットスター	100	18,000	15,812	87.8
	フィリピン	60	11,940	9,704	81.3
	タイガーエア台湾	144	25,920	21,924	84.6
	JAL	120	21,062	16,670	79.1
	ピーチ	180	32,400	30,004	92.6
	バニラエア	60	10,800	9,791	90.7
	スクート・タイガーエア	34	11,560	9,865	85.3
	合計		1,433	313,271	272,335

#### 〔各都市情報〕

##### ◆岩手

#### 人気プロガーも参加 台湾メディアが岩手の魅力取材

花巻空港と台湾を結ぶ本県初の国際定期便の就航を控え、岩手県は、台湾メディア関係者が県内観光地を巡る取材ツアーを行った。宮古市の浄土ヶ浜や田野畑村の北山崎などを訪れ、三陸の自然や食を堪能した。岩手県の魅力を台湾で発信することで、インバウンドの増加を狙う。花巻-台湾間の国際定期便は、台湾の格安航空会社タイガーエア台湾が8月1日就航予定。

##### ◆福島

#### チャーター便過去最多 福島空港-台湾間、年度内96便に

台湾の航空会社「遠東航空」は、11月から来年3月までに福島空港-台湾間の観光チャーター便を56便運航することが合意した。2018年度、福島空港と台湾を結ぶチャーター便は既に40便が決まっており、空港開港以来、年度別で最多となる計96便が運航する。チャーター便の実績を積み重ね、定期便の実現を目指す。

##### ◆千葉

#### 千葉県南農園で訪日客増 アジアの「コト消費」人気

果物狩りを楽しめる千葉県南部の観光農園で、アジアを中心に訪日客が増えている。日本の果物のおいしさが徐々に浸透しているのに加え、モノより体験を求める「コト消費」の人気もある。投資やPRに積極的な農家の評判はインターネットを通じ、国境を越え拡散中。企業の参入も目立ち、農産部必須の観光スポ

ットになりつつある。

市観光振興課によると、市内では台湾のブロガーや各国の駐日大使館員らを対象にしたモニターツアーに観光ブルーベリー園を組み込んでおり、摘み取りだけでなく、ジャム作りなどの体験が「珍しい」と好評で、「コト消費」も人気となっている。

#### ◆沖縄

##### 外国客「沖縄満足」90% コンビニやドラッグ店人気

2017年度に沖縄を訪れた外国人観光客のうち、旅行に「満足している」と答えた人の割合が90%を超えていることが県の実施した調査で明らかになった。「満足」とした外国人観光客の割合は、空路客が16年度比0.1ポイント増の95.1%、海路客が同0.5ポイント減の92%だった。航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増加で沖縄を訪れる外国人観光客が増加する中で、満足度も高い状態となっている。

空路客の県内での主な訪問先(複数回答)はコンビニエンスストアが最も多い85.1%で、次いで海岸・ビーチの83.1%、自然景勝地が79.4%、スーパーマーケットが77.5%などとなった。海路客の主な訪問先(複数回答)はドラッグストアが61.9%となっており、スーパーマーケットは336.7%、コンビニエンスストアが34.1%などだった。県内で購入した商品は空路客、海路客ともに菓子類や医薬品・健康グッズ、化粧品・香水が上位となった。